年報 第4号

中部大学民族資料博物館

中部大学民族資料博物館

年報　第 4 号

2014

中部大学民族資料博物館

MUSEUM OF ETHNOLOGY ART CHUBU UNIVERSITY

中部大学民族資料博物館
2014　年報

巻頭言

「博物館相当施設」指定時の審査指摘項目を改善するための計画二年目にあたり、博物館の施設環境整備と管理については日々の工夫から関係者相互の施設維持意識を向上することで、限られた人数と予算の範囲で工夫を試みた。そこで施設環境の調査としては、前半の時期に、資料保管維持や防犯、および害虫被害の回避のために、収蔵庫利用のルールを作成しスタッフ間に周知徹底を試みるほか、展示室内の全ての箇所の清掃作業も実施した。これらの試みから害虫被害の早期発見につながり、効果はすぐに実感することができた。展示資料に近づき、触れることは体験学習のみならず、日常の管理面においても私たち関係者の間においても重要であることがあらためて認識させられた。

しかし、その後の資料の整理作業の進行のうちに、作業者の利便性を優先する傾向へいつのまにか変化し、収蔵庫管理の目的は薄れている現状がある。わずかな工夫が目覚しい効果へと直結する一方で、諦観の日常化によって、環境はまたすぐにもとへ退行してしまうのだという現実も知った。次年度は、「博物館相当施設」指定後の改善計画の最終年度にあたり、愛知県への報告の完結年度である。課題を少しずつでも解決するよう、現状の把握に努め、管財部、図書館との連携をすすめながらできることを改善していきたい。

その他、当館の主だった企画催事としては、例年どおり、春秋二季の企画展示と、連続講演の開催、そして絵画実技の連続講座の開催、また学部教員らによる見学授業や高大連携授業、研究成果報告展示等を実施した。

春季企画展示は、当館の運営委員を中心として各自が研究テーマに関連した記録資料を持ち寄り、パネルにして紹介する内容で、多様な研究者が集う総合大学である本学ならではの、いわば人的にも多種多様な分野が集まる状態を再認識した。

秋季企画展示は、2014 年が大学開学 50 周年の記念の年として、当館においては 50 年のキャンパス風景の変遷の歴史を、建物と緑化計画に焦点をあてたパネルを作成し企画展示を開催した。準備期間が年度当初から直前の時期までというわずか半年あまりの限定した時間であったことから、その他の博物館の関連活動と同時並行しつつ計画準備を進めたが、実質的には秋季企画展示を年間における一つのピークとして最優先で行った年となった。大学の歴史に関わるテーマであることもあり、学内の関連部署の協力をさまざまに受けながら完成へとようやくこぎつけることができた。また、展示期間中は学内外の多くの皆様に温かい感想の声をお寄せいただいた。微力ながら当館が本学の大学博物館として貢献できる役割として参加することができたことに大きな喜びを得た。

理想と現実の両面に向き合いながら、今後の大学博物館の活動について様々に試行錯誤する一年であった。

2015 年 7 月　中部大学民族資料博物館

中部大学民族資料博物館
年報
2014

目次

巻頭言（平成 26 年度　博物館事業概要）

1　組織・施設

規程 …… 2
博物館の組織・人員 …… 3
運営委員会 …… 4
収蔵資料点数 …… 5
施設整備概要 …… 6

2　博物館活動報告

開館日数・入館者統計 …… 8
団体見学 …… 10
会議・出張 …… 11
展示・講演・講座 …… 13
出版事業 …… 31
資料収集・保存等 …… 32
調査研究活動 …… 33
教育・普及に関する活動 …… 35
広報活動 …… 38

（別表）　民族資料博物館　平成 26 年度展示・催事一覧 …… 40

1　組織・施設

規程（細則等）

名称：中部大学民族資料博物館管理運営細則の一部改訂（4 月 1 日）

事項：事前に申し出て申請書を提出することで、休館日においても特別に見学を受け入れる。
（博物館の開館日を表示したカレンダーを学校教育施設に配布するにあたり、
上記の件を周知する）

名称：寄贈資料・寄贈図書の取扱い書類と評価について（11 月 28 日）

事項：寄贈資料、および寄贈図書の取扱い書類と評価額の設定に関するルールと様式の制定

民族資料博物館の組織・人員

館長　和﨑　春日（国際関係学部長兼務、国際関係学部教授）

図書館事務部次長　稲ヶ部正幸（専任事務員）

副館長　宇治谷　恵（准専任事務員、学芸員兼務）
　　原田　千夏子（専任事務員・学芸員兼務）

　　猪塚　里香（契約事務補助員　平成 24 年 7 月～）
　　中川　智美（契約事務補助員　平成 25 年 2 月～）

　　佐藤　尚子（平成 24 年 10 月～）

運営委員会（平成 26 年度）

民族資料博物館運営委員会

委員長	民族資料博物館長	和﨑　春日
委員	民族資料博物館副館長	宇治谷　恵
	国際文化学科　教授	杓谷　茂樹
	国際文化学科　教授	中山　紀子
	国際文化学科　教授	財部　香枝
	国際文化学科　准教授	中野　智章
	中国語中国関係学科　教授	澁谷　鎮明
	中国語中国関係学科　講師	宗　　婷婷
	人文学部共通教育学科　教授	千葉　成夫
	人文学部日本語日本文化学科 教授	嘉原　優子
	情報工学科　准教授	鈴木　裕利
	幼児教育学科　准教授	釆睪　真澄
	管財部長	井畑　耕三
	管財部次長	吉崎　真琴
	図書館事務部次長	稲ヶ部正幸

外部専門委員	川上　實	（元愛知県立芸術大学学長、同大学名誉教授）
	石毛　直道	（元国立民族学博物館館長、同名誉教授）
	下川　辰彦	（日本美術院特待・国宝法隆寺金堂模写事業有実績）

アドヴァイザー	学園長	大西　良三
	名誉教授	畑中　幸子
	特任教授・学長付	前田　富士男

事務局	民族資料博物館	原田　千夏子

収蔵資料点数一覧　　2015年3月31日現在

地　域		点数	計
シルクロード	コイン	616	719
	その他	103	
オセアニア	オセアニア	466	466　(76)
アジア	西アジア	67	863　(56)
	東アジア	525	
	東南アジア	198	
	南アジア	73	
アメリカ	アメリカ	258	258　(24)
アフリカ	アフリカ	99	99　(8)
ヨーロッパ	ヨーロッパ	157	157　(6)
小　計			2,562　(170)
その他:コレクション関連資料			1,157(21)
合　計			3,719(191)

(　)は、写真・映像資料数。書籍は除く。

施設整備概要

「博物館相当施設」の指定（2013 年 2 月 5 日付公示）とともに、改善計画の進捗状況を以後 3 年間にわたり愛知県に報告することが定められている。平成 26 年度の第 2 回目の経過報告（12 月 5 日提出）にあたり、施設整備に関しては次の事項を報告した。

＜資料の保存環境の整備について＞

1　空調対策

・温湿度計測機の設置（2012 年 11 月～2014 年 12 月データ収集、半年毎の平均値集計）
以後はこれまでの集計期間のデータ統計結果をもとに、施設利用状況に応じた変動状況を分析し、展示ケースおよび収蔵庫内の環境整備方法について具体的に検討する。

・ガス検知検査（2014 年 7 月）
昨年度検査において、展示ケース内の有害ガスを検知したため、ガス吸着シート設置後に再検査。高い数値でガスが検知されたため、今後の対応を再度検討する必要があるとわかった。展示資料の素材に応じて対応方法を変更していく必要がある。

2　防虫管理対応

・生物調査（2014 年 3 月の展示室清掃後、5 月実施）
生物調査により、展示資料のうち発生中の事例を早期発見し応急対応したため、
周辺への拡大を防ぐことができた。
・昨年度の愛知県美術館指導後に、図書館との境界線を中心に扉下の隙間処理をした後、生物調査の捕獲数が明らかに減少したので、効果があったことがわかった。
・しかし、上記の検査後に搬入した新規受入予定資料等については、害虫検査を実施していないため、今後の適切な対応が必要だが、整理担当者の計画立案が保留となっている。

3　収蔵資料のデータベース化計画について（継続事項）

市販ソフトウェアを活用したデータベース計画として、分類項目の選定案についてＷＧ部会を通じて検討。今年度は選定業者を加えてより具体化した画面レイアウト案を作成中。

※収蔵庫整理作業については、今年度は博物館管理と管財部管理とによってそれぞれで対応。次年度は、データベース案をもとに、両者の整理内容を情報共有できるかたちに計画をすすめる予定。

その他

大学資料を活用した内外への周知については、上記のデータベース化計画のほか、大学と博物館が協力しながら、博物館企画の各種催事や発行印刷物において、作品資料の解説を付記しながら順に紹介を試みている。

（例：平成 26 年度の大学開学 50 周年記念に関連したパネル展示および図録、博物館ニュースレター等）

２　博物館活動報告

開館日数・入館者統計

（平成 26 年度　入館者数　月別表）

月	平成 26 年度			（参考：平成 25 年度）	
	開館日数	入館者数	備　　考　（ 主な出来事・行事 ）	開館日数	入館者数
4 月	23	956	特別講座作品展示（16～20 日：市役所サロン 300 人カウント入）、春のオープンキャンパス（19 日）、高校生による大学見学（7 件）、入学式	24	497
5 月	19	671	春季展示(5/16～6/30)、授業利用、高校生による大学見学（8 件）	21	574
6 月	21	682	高校生・他大学学生による大学見学(15 件)	21	797
7 月	23	545	夏季展示(7/8～8/9)、国際関係学部オープンキャンパス（19 日）、高校生による大学見学（5 件）	24	585
8 月	9	450	夏のオープンキャパス（8～9 日）、協力行事 3 件（8～9 日）、高校生による大学見学（2 件）	9	550
9 月	12	120	高校生による大学見学（1 件）	15	229
10 月	27	1,063	秋季展示(10/7～12/19)、秋季連続講演（16 日）、秋のオープンキャンパス（18 日）、父母との集い（11～12 日）、高校生による大学見学（9 件）	24	980
11 月	18	733	大学開学 50 周年記念式典（5 日）、全国大学博物館学講座協議会西日本部会総会（15 日）、秋季連続講演（26 日）、資料整理経過報告プレス紹介（28 日）、高校生による大学見学（8 件）	19	744
12 月	16	214	高校生による大学見学（4 件）	16	391
1 月	18	82	高校生による大学見学（2 件）	17	141
2 月	19	283	研究成果報告展示（6～27 日）、外部団体例会内施設見学（18 日）、高校生による大学見学（2 件）	18	100
3 月	21	522	高校生による大学見学（6 件）、卒業式	24	624
計	226	6,321		232	6,212

平成 26 年度の開館日は、226 日、入館者数の合計は 6,321 名である。この他、学内の別会場における催事（春秋季の連続講演：計 4 回や、春秋 2 季にわたり開催する特別講座）の参加者数計 227 名をあわせると、当館の平成 26 年度の催事参加者は合計 5,548 名となる。例年どおり、大学催事への参加を積極的に試み、土日祝日における催事開催時は特別に開館して対応をとった。特別開館した催事は次のとおりである。

平成26年度　大学催事に特別開館対応をした主な催事

総件数：　22　件　(1,190人)

内訳：

1)　4月19日（土）　春のオープンキャンパス（95）
2)　4月29日（火）　昭和の日(授業日)（5）
3)　6月28日（土）　他大学合同ゼミ見学（21）
4)　7月19日（土）　国際関係学部　夏のオープンキャンパス（14）
5)　7月21日（月）　海の日（授業日）（7）
6)　7月26日（土）　高校見学（43）
7)　8月 2日（土）　工学部さくらサイエンス・中国の大学生（15）
8)　8月 8日（金）　夏のオープンキャンンパス（43）
9)　8月 9日（土）　夏のオープンキャンパス（204）※10日・3日目台風にて中止
10)　8月30日（土）　同学園系列の中学校・高校見学（50）
11)　9月11日（木）　小牧市教育委員会　団体見学　（67）
12)　9月23日（火）　秋分の日（授業日）（15）
13) 10月11日（土）　父母との集い（140）
14) 10月12日(日)　父母との集い（61）
15) 10月13日（月）　体育の日（授業日）（6）
16) 10月18日（土）　秋のオープンキャンパス　（176）
17) 11月 5日（水）　大学開学50周年記念式典　（33）
18) 11月 8日（土）　同学園系列の高校PTA見学（94）
19) 11月15日（土）　全国大学博物館学講座協議会西日本部会総会内施設見学（53）
20) 11月24日（月）　振替休日（授業日）（3）
21) 11月29日（土）　同学園系列の高校PTA見学（44）
22) 12月 8日（月）　学園創立記念日（大学の祝日・補講日）（12）

団体見学

入館者数の内訳では、高校の大学施設見学としての団体見学である。受入件数は、68 件、見学総数は合計 3,485 名となり、昨年度に比べ約 250 名の増加となった。

この他、地域の学内学生が主体となって行う児童対象や、市民グループの講座内での見学、高校と大学の連携授業内での見学等において、見学授業のスタイルで展示室が利用される件数が増えた。大学博物館としての認知度をあげ、地域に開かれた教育施設として活動していきたい。

平成 26 年度　高校見学受入状況

受入件数　計 68 件、合計人数 3,485 名：前年度比　約 250 名増）

平成 26 年度　その他のグループ見学等の受入状況

6 月 9 日　春日丘高校と国際関係学部の高大連携授業の実施（140）
6 月 28 日　南山大学・中部大学合同ゼミ見学（21）
8 月 9 日　あつまれ！わんぱく隊（夏季）（192）
9 月 11 日　小牧市教育委員会見学（67）
10 月 15 日　地域デッサングループによるスケッチ（6）
2 月 18 日　春日井さくらライオンズクラブ　第 166 回例会（32）

＜申請関連＞
2014 年 12 月 5 日　愛知県教育委員会にて指導を受ける。
（「博物館相当施設」指定後の改善計画進捗状況報告　第二回）

会議・出張

会議

運営委員会

第 1 回（7 月 3 日）

議事　1　新委員紹介

2　平成 25 年度催事報告について

3　平成 25 年度開館日数、入館者数について

4　平成 25 年度までの寄贈資料について

5　平成 25 年度決算報告について

6　平成 26 年度予算について

7　平成 26 年度催事について

8　施設整備（生物対策、温度湿度・照明環境対策等）について

9　データベース作成について

10　民族資料博物館の施設利用申請者、および催事開催申請者への対応について

その他　受入予定資料について

第 2 回（12 月 11 日）

議事　1　日本西アジア考古学会への後援について

2　収蔵資料管理用データベース計画経過報告等について

3　「博物館相当施設」指定の「改善計画書」に係る「経過報告」2 年目提出における愛知県教育委員会の指摘事項について

4　平成 26 年度における資料の寄贈および購入について

専門部会

第 1 回（4 月 17 日）

議事　収蔵資料管理用のデータベース設計案について

・研究資料の入力欄の充実（検索機能、関連 HP へのリンクなど）

・画像のサーバー管理方法

・将来的に学生利用を想定した画面レイアウトや分類項目案の作成

第 2 回（11 月 12 日）

議事　収蔵資料管理用データベース設計案について 2

・使用環境の確認

・既存のデータ改訂について

・分類項目の再確認

第 3 回（3 月 10 日）

議事　収蔵資料管理用データベース設計案の経過について

・大学サーバー環境での設定

・大学（管財部管理）と博物館管理の共同使用

（セキュリティ面、画像管理、使用ルールの作成と今後の計画）

出張

5 月 13 日　寄贈資料受入現地打合せ（愛知県あま市）（宇治谷）

5 月 22 日　寄贈資料受入現地打合せ他（埼玉県浦和市）（宇治谷）

6 月 2 日　秋季催事打合せ（京都市）（原田）

6 月 12～13 日　第 36 回文化財虫菌害・保存対策研修会出席（原田）

6 月 25 日　愛知県博物館協会総会出席（宇治谷）

7 月 10 日　寄贈資料受入打合せ（長久手市）（宇治谷）

7 月 17 日　寄贈資料打合せ（清洲市）（宇治谷）

7 月 28 日　ボストン美術館意見交換会出席（名古屋市）（原田）

7 月 29～30 日　東海地区博物館協議会出席他（宇治谷）

8 月 22 日　寄贈資料受入（山梨県）（宇治谷）

10 月 17 日　記念講演会出席（愛知県立芸術大学）（原田）

1 月 14～15 日　Museum2015　自己変革する博物館　変化し続ける組織づくり」国際研究集会参加（宇治谷）

2 月 10 日　愛知県博物館協会　教育・普及部門研修会（愛知芸術文化センター）（原田）

展示・講演・講座

・常設展示

展示資料のうち、見学者の関心度が体験型のコーナーに集まる傾向にあることから、民族衣装と民族楽器の体験コーナーの配置場所をよりわかりやすく表記するほうがよいとの意見により、コーナーの一部を入り口から視界に入りやすいシルクロード室へ移動した。のちに年度途中の別の期間展示等の関係で、衣装コーナーはいったんもとの位置に戻している。展示空間のレイアウトについては実状をみながら検討していく。

・企画催事１（展示）

春季は、博物館関係者による作品資料の持ち込みによる展示、およびパネル解説を行った。

夏季は、所蔵資料に関する調査を兼ね、毎年テーマを決めて解説情報を補充する試みをしている。平成 26 年のテーマは「文様とかたち」とし、世界に共通する文様を収蔵資料のなかから見つけ出し、発祥の歴史や伝来の行方、形と象徴の意味との関連性等を紹介した。秋季は、大学開学 50 周年記念にあわせて、大学キャンパスの建築群と緑化計画の歴史と変遷を、写真資料や聞き取り調査をもとに新たにパネルを作成し展示した。50 年の歴史を紹介するには多目的室のスペースでは不足したため、館内の三箇所に三会場に分けて展示した。

冬季は、国際関係学部の教員の研究成果報告のパネル展示に協力開催した。

なお、毎年開催している特別講座受講生作品発表展示は、次年度分と合同開催を予定するため延期した。

・企画催事２（講演）

主要催事の春季と秋季の展示期間には、それぞれ関連するテーマでの連続講演を企画している。今年度は、春季は「人類・環境・文明・・・オセアニア、ラテンアメリカ」を共通テーマとして、オセアニアにおける海洋動物の調査にたずさわっている生態学研究者と南米の古代文明における人類学研究者による講演を開催した。

秋季は、本学の 50 周年記念として、キャンパスの文化的建築物として誇るべき、書院および庭園に関するテーマに合わせて「数寄空間の成立と展開について」を共通テーマとして、日本庭園の研究者と、茶室建築の研究者による講演を開催した。

・企画催事３（講座）

一般対象の実技講座（特別講座：古典絵画)を毎年継続して開催している。博物館における調査研究事業の一環として開館当初から開講している催事で、毎年受講希望者が定員を上回り好評を得ている。平成 26 年は、3 月から 4 月にかけて、講座開講三周年を記念し、当館内とさらに春日井市役所におけるギャラリーにおいて、会期を二回に増やして受講生の作品発表展示をした。本展示は、過去の受講生へも呼びかけ、これまでに制作した作品を一堂に会した内容で企画したことから、三年間の変遷を一望でき、作品制作の発展や傾向をみてとることのできるよい機会となった。

平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日間の展示・催事は次のとおりである。

・展示

催事名：特別講座開講三周年記念　平成 25 年度　特別講座（古典絵画講座）
　　絹絵／板絵／日本画　受講生作品発表展示
会場：民族資料博物館　多目的室（会期１）
　　春日井市役所　市民サロン（会期２）
内容：講座開講三周年記念により、過去の受講生の作品を一堂に展示。
　　出品点数 42 点（出品者数 18 名）

期間：2014 年 3 月 20 日(木)～4 月 10 日（木）（会期 1）
　　2014 年 4 月 16 日（水）～4 月 20 日（日）（会期２）
　　※2014 年 3 月 20 日（水）に指導講師による講評会を開催。
入館者数：517 名

特別講座　市役所展示

この「特別講座（古典絵画）」は、当館が大学博物館として開館以来、初年度から開講している一般対象の絵画の実技制作講座である。伝統的な技術を要するものの一つ、絹、板を基底材にした絹絵、板絵の制作を主要なテーマにしつつ、今年度は、絹絵・板絵・日本画（紙本）を自由選択制にし、それぞれの基底材にともなう技術指導を、各自の進行に応じて指導講師が適切に指導をすすめていく内容とした。このため、

同じ教室で制作しているあいだ、受講生は、基底材の異なる作品制作を行う仲間の制作状況も身近に勉強することができ、相互に触発しあう学習環境によって各自の作品に向かう意識がより向上するものとなった。また、胡粉や箔の取扱いをはじめ、伝統的な古典絵画の技術は、一度経験しただけでは会得できるものではなく、地道な継続活動と、一方では感性を新鮮に維持するという難しさをともなう。

また今回の展示にあたっては、過去に制作した作品もあわせて一堂に展示することとした。三年にわたって行ってきた講座の活動について、確実に進展してきているその成果がこの展示空間において一目で認識できると自負している。展示初日に行われた指導講師による作品講評から、なかには初めて絹絵を描く初心者もいたということだが、このように全員にわたって作品の仕上がりを一定のレベルにもっていく講師の指導力をあらためて実感した。なお講座開講三周年を記念して初めて、初めて春日井市役所市民サロンにおける発表も試みたことで、より多くの地域の皆様に見ていただく機会が増え、出品者とともに取り組むなかで励みとなった。今後の活動に対しても意欲的に計画していきたい。（原田）

担当：原田千夏子（民族資料博物館）

催事名：春季企画展示わたしのこの一点・・・選りすぐられた資料
会場：民族資料博物館　多目的室
内容：博物館関係者による、研究に関連した作品資料についての紹介・解説
期間：2014 年 5 月 16 日（金）～6 月 30 日（月）
入館者数：1,087 名（一般、教職員、大学生、高校生）

春季展示

民族資料博物館では、学内外の民族資料に関する研究成果を体系的に紹介する企画展示を、多目的室をおもな会場として年に数回開催している。今回の企画展示は、学内の民族資料博物館にかかわる方々が選りすぐった資料（1 点ないし数点）を選びだし、それを自らの学識、あるいは経験的な切り口で解析し、資料に新たな価値を付加する展示であった。学内の十名以上の方々から出品協力をえることができ、多様な資料や情報との出会い実感し、今まで気づかなかった博物館資料の奥の深さを再発見することができた。また、クリスマスピラミッド資料のように、常設展示資料を補充に資することができたことなど、その成果が今後の博物館活動の発展に貢献できたのではないかと推察される。

改めて、出品をいただいた方々のご協力に深く感謝するしだいである。（宇治谷）

担当：宇治谷　恵（民族資料博物館）

催事名：夏季常設コレクション展示「文様とかたち」
会場：民族資料博物館　多目的室
内容：収蔵資料のうち、世界の地域に共通する文様をとりあげ、文様の発祥と伝来、かたちの特徴に関する解説を作成。館蔵資料をもとにした地図や年表資料等を新たに作成し、常設展示内の展示ゾーン別に色分け区分の番号表示を付け、案内用のレーフレットを作成。常設展示空間について新たな観察方法を提案した。
期間：2014 年 7 月 8 日（火）～8 月 10 日（日）
入館者数：739 名（一般、教職員、大学生、高校生、児童幼児）

収蔵資料を紹介するためのテーマ展示として始めた常設コレクション展示も、今回で 4 回目となる。「文様」に焦点をあてることとし、世界の様々な国、地域、民族において、伝統的な「かたち」を調べることにした。展示においては、伝統的な文様の図柄のなかに共通性を見出し、ながめてみることによって、大自然と向き合うなかで人間が発想してきた普遍的な感性について、感じ取ってみたいと思い、主な文様の種類をとりあげてみた。

夏季展示

各国の王家の紋章や日本の家紋のように、一族の成り立ちに関わる象徴的なかたちをシンボルとして、デザインに象られて継承されてきたものも多い。その「かたち」は、その共同体の絆を深める役割をしてきた。世界各国の工芸品や民族衣装には、民族のアイデンティティの「祈りのかたち」として、植物や動物の姿に託して、豊穣や繁栄への願いが込められている。

夏季展示チラシ

そこで、世界の古い文様の種類を紹介する解説パネルのほか、当館の展示資料にも類似したデザインをかたどっている 54 点もの事例を地図上で確認できるように、資料写真を組み込んだ地図を新たに作成し、シルクロード文化圏上に分布および伝来してきた主な変遷を比較できるように試みた。またパネルの地図上と写真画像に共通の番号を付け、常設展示内の資料番号表示をこの展示用に新たに設置し、両者を照

合できるようにした。このことで、館内の展示位置との関連性をもたせながら、来場者に鑑賞してもらうねらいであった。

また各国の文化的背景を大きな時代区分のなかで把握できるよう、高校の世界史の参考教材を活用して比較文化研究のための資料として、年表やパネルに仕上げて展示に加えた。

その他、児童向けに、展示資料の写真画像をもとに手書きで文様のかたちの概観をかたどった白描図を数種類作成し、塗り絵用に多目的室内に用意することも試みた。

展示内容としては、世界史を学習した高校生以後の年齢層を対象としているが、それよりも若い年齢層については、実際の博物館の展示空間のなかから、花や動物のかたちを発見する行動と絵を描くという行為から、直接的に資料に触れる体験を増やしていくことも情操教育へのきっかけとして提案したいと考えた結果、鑑賞の対象者を幅広い年齢層に向ける方向を試みたが、全体をとおしての所感は、解説およびパネルレイアウトの表示サイズやデザインのバランスをさらに検討し、展示空間に設置した場合の視覚的効果をより考えることで、展示によって伝達したいテーマをより明確に打ち出すことができると思われ、教材研究について今後のさらなる課題をあらためて強く実感とした。（原田）

担当：原田千夏子（民族資料博物館）

催事名：2014 秋季企画展示「春日井キャンパスの 50 年」

会場：民族資料博物館　多目的室、シルクロード室、１階エントランス

内容：大学開学 50 周年を迎える本学のキャンパスの建物と緑化計画の変遷の様子をたどるテーマを企画し、大学にこれまで記録保管されてきた貴重な資料を各部署より借用し展示をした。

会期：2014 年 10 月 7 日（火）～12 月 19 日（金）

入場者数：1,932 名

秋季展示

大学開学 50 周年記念の年に合わせて、キャンパスの建物と緑化計画の変遷の様子をたどるテーマを企画し、大学にこれまで記録保管されてきた貴重な資料を各部署より借用し展示をした。開学当初の工事図面やキャンパス計画図、そして 50 年にわたって各年代に建てられてきた建物のパース図の数々や、歴代の大学案内パンフレット、年史資料などを展示準備のためにあらためて調査するなかで、展示内容を吟味するために思いのほか時間を費やしたが、各部署の協力を得て実現した。特に、本学のキャンパス計画に長年従事されてきた大西学園長には、企画全体にわたる監修と解説作成

に多大なる御協力を賜り、大学の創設期から現在までの過程を一望できる記念碑的な展示内容を紹介することができた。また、展示パネルデザイン等にかかるさまざまな考案については、外部委員の下川先生に御指導を受けながら完成になんとかたどりつくことがかなった。

展示期間中には、他部署からの広報協力を得たことや、大学全体で開催したさまざまな記念行事などで、多くの客人を当館へむけていただいたおかげで、わずか2ヶ月あまりの期間で年間来館者数の 3 分の一相当にあたる過去最高の来館者数にのぼった。

秋季展示チラシ

この展示開催において、学内全体に通じるテーマを扱うことで、これまで以上に学内外からの関心を寄せる声をいただく機会が増えてきた。当館が本学における大学博物館としてより多くの人々に愛されていくためにもこうして大学全体で連携して行う催事の意義は非常に大きいものであることを実感した。今後も工夫していきたいと考えている。

あらためて多くの人々の情熱の結集によって本学が現在にいたり、そして今もなお進行形のなかにあり、その姿を私たちが多くの先輩や仲間とともに創り上げ続けている状況を再認識することとなり、キャンパスの風景のなかで樹木一本をみつめる意識も自身の内で変化していった。（原田）

担当：和﨑春日、大西良三、下川辰彦、原田千夏子（民族資料博物館）

催事名：研究成果発表展示

「日本人が残した写真絵葉書に見る 100 年前の東南アジア　付アフリカ」

会場　民族資料博物館　多目的室

内容：国際関係学部教員の研究成果を発表したパネル展示。100 年前の東南アジアにおける日本人の暮らしを伝える写真絵葉書に関する背景をまとめ、現物も一部展示。

期間　2015 年 2 月 6 日（金）～2 月 27 日（金）

会場　民族資料博物館　多目的室

入場者数：276 名

「日本人が残した写真絵葉書に見る 100 年前の東南アジア　付アフリカ」展に見る
日本人の足跡

2015 年 2 月 6 日から 27 日まで、中部大学民族資料博物館で「日本人が残した写真絵葉書に見る 100 年前の東南アジア　付アフリカ」展が開催された。

この展示会は、私が日本学術振興会科学研究費（基盤Ｃ）（2012～2014）及び中部大学特別研究費Ａ（2012～2013）の支援を受けた「南洋における日本人社会の形成と変遷　在日外国人との共生の一助として」研究の成果公表の一部であり、開催は JSPS 科研費 24617019 の助成によるものだ。

近年経済成長が著しい東南アジア諸国では、古写真や古絵葉書への関心が高まり、公文書館や図書館、博物館が入手に努め、絵葉書を拡大した写真の展示や、絵葉書集の発行、絵葉書の複製販売などが行われている。その中には日本人が関与した絵葉書も相当数含まれているが、写真の撮影者や絵葉書の発行人の情報について説明が付されることは少ない。

カメラや電話がまだ普及していない時代、簡便な通信手段、手軽な土産として重宝だった写真絵葉書は、各地の写真館や商店が競って製作・販売した。日本人も、1904 年の消印がある絵葉書を作成したミャンマーの藤井商会をはじめ、100 年以上も前から 70 店以上の日本人写真館や商店が販売している。しかし、絵葉書の購入者のほとんどが欧米人だったことから、販売国の東南アジア諸国ですら残存するものは少なく、日本でもその存在が知られることはほとんどなかった。

２月展示

日本と同様に、風俗や文化、自然や建造物など、東南アジア諸国でもすでに失われたものは多い。また、日本人の東南アジアへの関与についても、一般日本市民の活動を物語る史資料は極めて少ない。

そうした意味でも、歴史の一コマを画像に残した、「無名」の日本人たちの足跡は大きく、日本と東南アジア諸国との交流史の観点からも評価に値する。本展では、東南アジアの日本人写真師など 45 名とアフリカの日本人写真師 2 名が作成した絵葉書など 180 枚を 56 枚のパネルで紹介し、あわせてカタログを作成し研究機関等に配布した。（青木）

企画：青木澄夫（国際関係学部）

※特別講座受講生発表展示については、平成 26 年度は平成 27 年度と合同開催予定となった。

・講演

催事名：2014 春季連続講演「人類・環境・文明・・・オセアニア、ラテンアメリカ」

演題：第一回「もう一つのクジラ論――オセアニアからの報告」

講師：秋道　智彌　氏　（総合地球環境学研究所名誉教授）

司会:宇治谷　恵　（民族資料博物館　副館長）

日時：7 月 16 日（水）15 時 30 分～

会場：中部大学リサーチセンター　大会議室

参加者数：41 名

春季講演チラシ

秋道先生は京都にある地球環境学研究所の副所長の要職を担われたとともに、大阪の国立民族学博物館の名誉教授を勤めておられる。アジア・太平洋地域研究の著名な人類学者であり、クジラを中心とした生物と人とのかかわりあいや、地球環境の課題など、さまざまの「生き物」に関する提言をされている研究者であることも明記しなくてはならない。

講演内容は、クジラと「捕鯨」の歴史と課題、及び資源としてのクジラについて詳細なデータをもとに紹介された。特に先住民や伝統地域の人々の「生存捕鯨」や「小型捕鯨」のあり方については興味あるものであり、欧米の価値観との相違をわれわれがどう解釈するのかという大きな課題を提示されたと思われる。考えなくてならないのは、先住民捕鯨、商業捕鯨、反捕鯨という対立の視点ではなく、クジラ類の保全と持続的利用、地域文化の継承をいかに存立するかを考えなくてはならないとの指摘であった。この指摘は、これからの日本がどのようにこの地域と関係を進めるか、あるいは国際社会でのあり方、そして宗教とは何かを考えるうえで貴重なお話であった。講演終了後には、参加者からも熱意ある質問や意見があり、今後の研究を継承・発展させるうえでも有意義な講演会となった。

（宇治谷）

担当：宇治谷　恵（民族資料博物館）

催事名：2014 春季連続講演「人類・環境・文明・・・オセアニア、ラテンアメリカ」

演題：第二回「古代アンデスの環境と人間」

講師：大貫　良夫　氏　（東京大学名誉教授　野外民族博物館リトルワールド館長）

司会：宇治谷　恵　（民族資料博物館　副館長）

日時：7 月 23 日（水）15 時 30 分～
会場：中部大学リサーチセンター　大会議室
参加者数：42 名

春季講演　第一回目

春季講演　第二回目

大貫先生は、現在も、ペルーにもご自宅を持ちつつアンデス研究を継続されている稀な先生である。先生は、わが国だけでなく世界から、アンデス地域における考古、人類研究といえば、大貫先生と呼ばれており、アンデス研究をリードされている世界的な第一人者の研究者である。

講演では、インカ帝国から、今日の近代国家としてのペルーにいたるまでを、自然や文化の変容などについて、環境や食文化及び人類史の視点から紹介された。具体的な事例として、ジャガイモなどの芋栽培やピーナツやとうもろこしの栽培、そしてリャマ、アルパカなどの家畜の変遷についての紹介があった。さらに、大貫先生が自ら考えられている「神殿」と「都市」との成立と発展に関する視点を「遺跡」からどう読み取るか。あるいは、収集された「遺物」の持つ情報をどのように解釈するのかなど、アンデス文明を考えるうえで貴重な指摘だけでない。われわれ現代社会に暮らす者にとって、この講演は、先生の長い研究生活をとおして、現代文明や都市文明とは何かという大きな課題を改めて考えるうえでよい機会でであった。先生の熱弁は時の経過を忘れるものであり、予定終了時間を越えても、多くの参加者は席をたたなかったのである。（宇治谷）
担当：宇治谷　恵（民族資料博物館）

催事名：2014 秋季連続講演「数寄空間の成立と展開について」
演題：第一回「“市中の山居”からのメッセージ」
講師：尼﨑　博正　氏（日本庭園史・作庭・ランドスケープ／京都造形芸術大学教授）
パネリスト：白幡洋三郎（庭園文化史／中部大学特任教授、元国際日本文化研究センター教授）
司会：下川　辰彦（日本美術院特待／中部大学民族資料博物館外部専門委員）
日時：2014 年 10 月 16 日（木）15 時 30 分～

会場：中部大学リサーチセンター　大会議室
参加者数：70 名

今年は、本学の大学 50 周年記念の年にあたり、秋季企画展示を「春日井キャンパスの 50 年」と題してキャンパス内の建物と緑化計画の変遷をパネルにまとめ展示する試みをするなかで、この期間に関連したテーマとして、日本庭園における景観についての連続講演を企画した。

第一回目の講演でお招きした尼﨑氏は、自らも庭園設計を行う傍ら、古庭園の修復指導から近代の日本庭園の作庭師の小川治兵衛に関する大著をまとめられてきたことからわかるように、作り手と研究者という両者の観点を複合的にあわせもつことで、非常に層の厚い御研究をすすめられてきている。本講演においても、茶庭における露地のあり方について、都市空間の成り立ちから都市における茶庭の求められてきた精神性を解説していただいた。

また、講演の後半には、同氏と親交の厚い庭園文化史研究の白幡氏をパネリストに加え、さらに近現代の日本人である私たちの理想とする空間作りについて考えさせられる事例をあげながら、専門の眼から日常をどのように切り取り美しい景観を見出していったらよいのかという考察に両先生が見事に導いてくださった。

秋季講演チラシ

秋季講演　第一回目

尼﨑氏の講演と両先生の対話をぜひ聴きたいという庭園造園関係者の方々も多く来場いただき、会場はほぼ満席の状態であっただけでなく、講演のお話によって、日本人の培ってきた美的な感性の歴史を、庭園という特有の空間を通じて、私たちも過去から現代、そして未来へ継承する一員であるというような使命を感じ取ったように思われ、心温まる思いがした。（原田）

担当：下川辰彦、原田千夏子（民族資料博物館）

催事名：2014 秋季連続講演「数寄空間の成立と展開について」
演題：第二回「茶室・数寄屋像の多様性について―近世から近代へ」
講師：矢ヶ崎善太郎　氏（日本建築史・伝統建築生産学／京都工芸繊維大学准教授）
司会：下川　辰彦（日本美術院特待／中部大学民族資料博物館外部専門委員）
日時：2014 年 11 月 26 日（水）15 時 30 分～
会場：中部大学リサーチセンター　大会議室
参加者数：53 名

秋季講演　第二回目

秋の連続講演第二回目の講演にお招きした矢ヶ崎氏は、主に茶室建築と庭園との関係性を研究テーマとされている気鋭の研究者である。ご講演のお話から、庭園建築を理解するためには、当然のことながら、作庭家や茶道家、さらに建築家や各職人の方々の英知が結集され初めて完成されるものであることをあらためて認識させられた。かつては、施主が貴族、武家、寺社仏閣など多様であることもなおさらに建築の構造の意義が奥深いものとなる。こうした多様な人々の関わりを総合的に調査研究されている矢ヶ崎氏の観点は、建築の特徴に込められた一つ一つの思いを丹念に紐解く解説の随所に、制作に関わった全ての作り手への敬意を持たれている様子がうかがうことができた。やはりその熱意は、作り手の息吹を傍で見聞きされているからこそ、苦楽の実状を知り、そしてまたその「かたち」に込められた「時代を超える祈り」を言葉にして伝達する使命を感じていらっしゃるからかもしれないとも思われた。

今回の講演では、近隣の茶道家の関係者として女性の参加者も数多く、茶道の聖域といえる茶室の成立と、それらを各時代の様々な分野の人々によって守り改訂されながら継承されてきた歴史に対する講演内容に感銘を受けたという声が多く寄せられた。また時間の都合で煎茶に関する箇所が省略されたことを受けて、次回の開催を希望する声も同じく多く、関心の高さがうかがえた。

講演の最後には、司会により、講演と同時期に当館で開催中の秋季企画展示「春日井キャンパスの 50 年」に触れ、本学キャンパスにおける書院建築「洞雲亭」「工法庵」「爛柯軒」と庭園一帯の紹介とともに、今後私たちがこの建物と緑を愛し、憩いの場として過ごすことで、未来へ継承していくという行動へつなげていきたいという言葉が添えられ、一同がこれまでの 50 年への感謝の思いと、またこれからの日々への思いを新たにした。（原田）
担当：下川辰彦、原田千夏子（民族資料博物館）

・講座

催事名：特別講座「古典絵画講座」

期間：講座１　2014 年 5 月 14 日～7 月 30 日　計 12 回　（16 名）定員制

　　講座２　2014 年 10 月 1 日～1 月 28 日　計 12 回　（15 名）定員制

講師：下川　辰彦（日本美術院特待・中部大学民族資料博物館外部専門委員）

[講座１]

特別講座の制作風景

開講 3 周年記念展を 4 月まで行い、好評につき、新年度も本講座を開講することになった。本講座の特色をあらためて挙げるとすると、伝統文化について、直接的に素材を扱いながら作品に仕上げていく過程を通じて、その構造と精神的背景について理解を深めるという文化教養の向上を目的としている。日本画という絵画の分野には、彩色に用いる墨や顔料、染料は、もとは天然の鉱物や植物を原料とするほか、接着剤の用途として用いる膠や、基底材となる和紙、そして筆もまた、もとは天然素材から作られてきた伝統的な材料であり、大陸から伝来した技術を長い時代をかけて日本の風土にあわせ表現方法が発達してきたという、これらの特徴から、日本における伝統文化理解のための方法として、この絵画制作をもとにすることが一つの意味がある。

そのなかでも、本講座は、日本美術において、平安時代以降の仏画に発達した金箔を用いた絹絵の裏彩色や、江戸時代の琳派等における胡粉や墨の効果的な用い方による表現技法等、普通、専門大学や研究所以外では学習することができない内容を、指導講師が実際に手を動かして指導している点が他の関連文化教室とは一線を画している。

一方で、受講生は、絹絵、板絵、日本画における基底材による制作作品を選択し、各自が制作進行を決めることができるようにしているため、指導講師は、一つの講座のなかで古画研究から現代作品まで幅広く指導にあたるというカリキュラム内容をとっている点でも独自の特色をもっている。これまでの講座における学習風景は、全員が非常に熱心に取り組み、毎回表情を輝かせて本学に通い続ける人々の表情をみてきたので、今年度も新たな面々を加え、どのような作品が生み出されるか楽しみである。（原田）

[講座２]

後半をむかえ、今年は特に受講生各自の制作の進行にそれぞれの趣向がみえてきた。一枚の作品にじっくりと取り組む人、小品を複数枚描き、組み合わせて一つの額装におさめるよう仕上がりを総合的なデザインも楽しみながら試みる人、古典絵画の模写に挑戦し、古色の雰囲気を作るために下地に工夫を試みる人など。さまざまな作品のスタイルを自分

なりに思考し、またそれに対して指導講師がよりよい方向性を助言することで、さらに興味深い新たな世界へと広がっていき、受講生らの制作に対する関心度が一層高まっている状況をみてとった。各自の強い制作意欲は日々の制作風景から認識できるため、今年度は納得のいく作品完成度に到達するまで待つこととし、年度末の作品発表展示を次年度と合同で行なうこととした。なお、年度途中に、本講座受講生が、地域の作品公募展に入賞したことを追記しておく。(原田)
担当：原田千夏子(民族資料博物館)

【H26 年度　特別講座１（古典絵画）中部大学民族資料博物館アンケート　集計結果】
太字＝回答
回収数　１４名／受講性１５名　（1 名都合により欠席のため未提出）

１　講座全体について感想をおきかせください。
①　大変関心を深めた　　②普通　　③あまり関心が持てなかった
①１４名
②　0
③　0

２　講座の内容でどのような点に関心を持ちましたか、具体的に教えてください。
- **すべて全般**
- **金箔を使った技法が思ったより大変で初めての体験でした。**
- **たらし込み技法、金箔の張り方等**
- **日本画の様々**
- **講座の内容はとても関心をもっております。**
- **絵具のとき方、筆使い、金泥のとき方など初めてな事が多く、大変勉強になりました。**
- **絵具のとき方など全て。**
- **他の人の作品制作の様子（指導されているところ）を見ることができて勉強になった。**
- **技術面、作画の考え方を教えて頂いてありがたかった。**
- **小絵、大絵の絵具の使い方、膠の量の違いにおどろかれされました。**
- **絹絵、板絵等自由に描かせていただけて嬉しい。**
- **日本画の奥深さ（画材、技法）等に感嘆。**

３　講師の指導について、いかがでしたか。
①　満足した　　②普通　　③いまひとつ
①１４名
②　0
③　0

4　講師のどのような指導が良いと思われましたか。

- 一つ一つ丁寧
- 一人一人の個性を指導される中で絵に関することを指導いただけて嬉しかったし、為になりました。
- 一人一人に適切なアドバイスとても勉強になりました。
- 独り独りへの力量、技法の指導、新しい技法等、色々と学べました。
- 丁寧な指導がよいと思います。
- あらゆる事に興味があります。色々と学ぶ事が出来、感激で一杯です。
- 一人一人丁寧に指導して頂き、思いもよらぬ色使いや構図を指導して頂きとても良かったです。
- とても丁寧なご指導をいただき感謝です。
- どうしてかを解説しねがら実際にやって教えてくださったところ。ほめないところ。
- 根本的なとこを指導してもらえる点。
- 技術を細かく教えて下さる点。きびしい一言がハッと思わせて頂いています。
- 個人の技量に合った指導を丁寧にしていただき感謝いたします。
- 箔の扱い、他の高度な技法を実技で指導していただけること。

5　具体的な連絡手続き等で、困った点やお気づきの点がありましたら教えてください。

- スムーズに連絡いただきました。
- 連絡ゆきとどきありがとうございます。又ご指導ください。原田さんに感謝しています。
- 大変お世話になりました。原田様にはいつもお世話になり感謝してます。
- 良くしていただきました。原田さんの影の力ぞえに感謝しています。
- 講座時間がPM4：00終了だといいと思います。
- しっかりと連絡して頂き、ありがとうございました。特に原田さんにはお世話になりました。
- 無
- 特になし。
- とても気づかっていただき、有難く思っています。
- 別になし。
- 完璧です。

6　今後、これに類した講座を開催する場合、受講を希望しますか。

①受講する　　②わからない　　③受講しない

①１４名
②　0
③　0

７　今後、希望される講座内容や、また改善を望まれる点など当館へのご意見・ご要望をお聞かせください。

- **継続的な講座の開講**
- **古典絵画を学びたいです。講座を末永く続けてほしいです。**
- **又講座が受講出来る機会がある様に願ってます。**
- **新しい日本画、今後の日本画の進む方向の指導もほしいが、大和絵的なものもやってみたいです。**
- **希望者が多数いらっしゃる様でもっと続けて勉強できたらいいと思いますが、落選した場合は残念です。**
- **まだまだ勉強させていただけたらと希望します。**
- **通年コースの方が作品が仕上がる。**
- **できたら講習教室と駐車場が近いとありがたい。**
- **一年間通しの方が本当に希望です。**
- **下川先生の講座が長く続きますよう、願っております。**
- **今後も継続して開催される事を希望します。**

～ご協力ありがとうございました。

【H26 年度　特別講座２（古典絵画）中部大学民族資料博物館アンケート　集計結果】

アンケート回収数（　１３　名／受講生　１５　名）　［回収率　約８７％］

１　講座全体について感想をおきかせください。

①　大変関心を深めた　　②普通　　③あまり関心が持てなかった

①　**大変関心を深めた**	**１３名**
②　**普通**	0
③　**あまり関心が持てなかった**	0

２　講座の内容でどのような点に関心を持ちましたか、具体的に教えてください。

- **日本の伝統的な画材、技法**
- **日本画の技術**
- **個人にあった内容で、またそれぞれの違いが他の方の様子を見てまた勉強になりました。**
- **墨を使った表現。様々な胡粉の使い分け方、刷毛による彩色の仕方など多様な表現方法を学べました。**
- **絹にはじめて挑戦させていただきましたが、紙とちがい裏から描くという技術はとてもおどろきました。**

・絵具もさまざまな胡粉があり、使い分けるということが学べました。
・作品によって色々な手法（技）を教えてくださる。
・金箔、銀箔の扱い方、箔のあかし、箔押しは初めての経験でやり方が少しわかりました。盛り上げ胡粉、方解末を効果的に使う画作を観る事ができ、大変勉強になりました。裏打ち、絵具を焼いて色を作っていく工程など、普段見ることができない作業をみることができてよかったです。
・基礎から上級者までの絵それぞれに対して、技法から失敗した時にも修復の方法等すべてが勉強になり、奥の深さを感じます。
・日本画の繊細な美しさや絵具のとき方の難しさなど色々有りましたが続けて描いていきたいと思いました。
・先生のご指導がひとり一人に丁寧におしげもなく色々な手法等教えていただけ、とても有意義で日本の絵に対する理解を深めることができ、また日本画には大変な技術がこめられていると知ることができよかったです。
・日本画の技術的なところ、細かいところ（本に書いていない技術、知識）が聴ける。
・個別指導がひとりひとりの特徴をとらえて指導していただけたことが勉強になります。

３　講師の指導について、いかがでしたか。
①　満足した　　②普通　　③いまひとつ

①満足した　１３名
②普通　　0
③いまひとつ　0

４　講師のどのような指導が良いと思われましたか。
・実技を手に取るようにして指導される。
・高度な技法は御自身で実際に描写してくださる等。
・根気よく重要な基本をくり返しご教示いただいた。
・他では教えていただけないような指導で大変感謝しています。
・下川先生はあらゆる表現に精通しておられるので、実際に目の前で技法をやって見せていただけることがものすごくありがたいことで、この講座でなければ知ることができないことだらけです。
・各生徒に合わせたご指導をいただき、大変ありがたいと思いました。他の生徒の習っている技術も見ることができ自分ももっといろいろな事がやってみたいと思いました。
・説明だけでなく実践してくださいますのでわかりやすいです。
・一人一人に丁寧に指導していただきました。筆使い、色彩、膠の濃さ、描き方意識など指導されている様子を見学しながらおどろく事が多く参考になる事が多くあり

ました。
・どんな時も色々な方法、考え方、アイデア、筆の使い方、箔の張り方（すべて）毎回指導してくださるので、生徒皆で喜んで進んでいます。
・丁寧で、失敗してもやさしく直していただき、絵を描くこと（描くところまでいっていませんが・・・）が楽しくなりました。本当にありがとうございました。
・聞けば色々と丁寧に答えていただき教わることができる点が素晴らしく有難かったです。
・具体的に教えていただけるところ。講習が２週間に一回ぐらいのペースがうれしい。
・細かく教えてくださる。
・絵の具体的なポイントを指導されること。

５　具体的な連絡手続き等で、困った点やお気づきの点がありましたら教えてください。
・完璧でした。
・先生は休憩時間をとられずにご指導くださているので、お休みいただけたらと思いました。
・講習の机がもう少し大きいとありがたい。
・あまり困ったことはありません。皆さんの裏の力に感謝しています。
・なし
・ありませんでした。

６　今後、これに類した講座を開催する場合、受講を希望しますか。
①受講する　②わからない　③受講しない

①受講する	１３名
②わからない	0
③受講しない	0

７　今後、希望される講座内容や、また改善を望まれる点など当館へのご意見・ご要望をお聞かせください。
・古典絵画の貴重な講座です。今後も開催されますことを望んでいます。
・１年通じてもう少し拾い教室だと助かります。
・この講座をできるだけ続けてほしいです。そして受講させていただきたいです。
・月に一回で良いので長く続けてほしいと思います。続けたいです。
・もう少し拾い部屋があればうれしく思います。
・いろいろお世話になりありがとうございました。
・日本画を続けていただければと節に望んでおります（絵具の色の使い方等まだまだ教わること多く）。

・ 水墨画、デッサン教室（人体等）もあれば希望いたします。

～ご協力ありがとうございました。

出版事業

・中部大学民族資料博物館「2013 年度　年次報告　第 3 号」（6 月）
・中部大学民族資料博物館「2013　主要企画展示記録」（6 月）
・中部大学民族資料博物館「2013　連続講演記録」（6 月）
・中部大学民族資料博物館 2014　秋季企画展示図録「春日井キャンパスの 50 年」（11 月）
・中部大学民族資料博物館「ニュースレター　7 号」（2 月）

資料収集・保存等

次の平成 26 年度分の受入資料について学園へ報告した（1 月）。

寄贈資料
計 1,517 点
内訳：
・民族衣装　532 点、靴 199 点、図書 339 点、写真 21 点、その他 405 点　（個人）
・オセアニア地域資料　1 点（個人）
・民族衣装（試着用）　7 点（個人）
・書籍　13 点（個人）

資料修復・資料保存等
資料修復については、次の資料について主に破損部の補修を行い、現在継続中である。
・オセアニア地域資料の木彫資料
（畑中幸子アドヴァイザーの収集資料について、采睪真澄委員により木彫に付属している貝の装飾のうち不足箇所を充填、ひびの接着等）

資料保存環境については、虫害調査前に展示室の展示ケースおよび外置き展示台についてスタッフにより清掃作業を行い、目視観察により一部の資料に虫害の可能性があることがわかり、業者によるトラップ調査を実施（5 月）。虫害発生の展示資料を早期発見することで回避による応急対応ができ、周辺への被害拡大を防ぐことにつながった。
その他、昨年度に開館時に大学にて新規購入した展示ケースに有害ガスを高い数値で検知されたため、今年度はガス吸着シートを活用し、一定期間をおいて再度検査を実施した（7 月）。しかし、ガスの数値はさほど減少しなかったために、別途対応策を見直していく必要があることが明らかとなった。展示方法により検討をしていきたい。

その他、2012 年冬季より開始した温湿度計測データの経過分析をおよそ 2 年間にわたり集計したので、今後、この統計結果をもとに現在の施設環境と展示資料との関係性について分析をすすめ、図書館および管財部と連携しながら施設環境の充実化をはかっていきたい。
その他、当館職員が文化財虫菌害研究所主催の IPM コーディネーターの資格認定のための研修を受講し（6 月）、正式に認定証を受領した（8 月）。

調査研究活動

＜宇治谷　恵＞
（展示）
　催事名：春季企画展示「わたしのこの一点」
　主催者名：中部大学民族資料博物館
　期間：5 月 16 日～6 月 30 日
　場所：中部大学民族資料博物館　常設展示内
　内容：企画、展示指導、解説執筆参加

（講師）
催事名：博学連携教員研修ワークショップ 2014 in みんぱく
　　「学校と博物館でつくる国際理解教育―センセイもつくる・あそぶ・おどる・たのしむ」
主催者名：国立民族学博物館・日本国際理解教育学会
開催日：2014 年 8 月 5 日
場所　：国立民族学博物館（講師全 25 名）
対象　：約 120 名（学校等の教員、学芸員等）
内容　：文化人類学及び博物館学等の成果を活用した実践事例の紹介及びワークショップ形式での体験学習。学校の教員がどのように博物館を活用できるかを教員、学芸員、大学研究者等が互いに学び会うことで、その課題や問題を考える。

その他、中部大学他にて、「博物館経営論」、「博物館資料保存論」を担当。

（研究発表）
催事名：「Museum 2015　自己変革する博物館　変化し続ける組織づくり」国際集会
主催者名：平成 26 年度 文化庁地域と協働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業
　　（大妻女子大学博物館、全日本博物館学会、東京国立博物館ほか）
日時：2015 年 1 月 15 日
題目:「大学と社会におけるスマートミュージアムを考察する―中部大学民族資料博物館の事例から」
内容：これからの博物館のあり方を国際的視野で考察する。

場所：明治大学駿河台キャンパス

（その他）
催事名：平成 26 年度全国大学博物館学協議会西日本部会
日時：2014 年 11 月 14 日～15 日
場所：中部大学、中部大学民族資料博物館ほか。
対象：加盟大学 53 校参加（博物館学担当教員、教務課系担当職員など）
内容：開催校担当

＜原田　千夏子＞

（研究発表）
主催者名：第 60 回　形の文化会
日時：11 月 22 日
場所：共立女子大学
題目：「庭園と絵画におけるデザイン――雪舟作品の図面化による考察方法の試論」
内容：中世の水墨画家、雪舟の絵画と庭園の両作品について、新たに図面を作成し、平面と立体の空間の構成表現に共通性を見出す作品分析方法を提案する。

（展示）
展示名：「特別講座開講三周年記念展」4 月第二会場
主催者名：中部大学民族資料博物館
期間：4 月 16 日～20 日
場所：春日井市役所　市民サロン
内容：企画参加。制作記録制作。
特別講座（古典絵画／絹絵、板絵、日本画）の一般有料受講生による制作作品の発表。三周年記念として、これまでの作品や過去の受講生にも出品を募り、継続 3 年間の制作過程を一堂に介す展示を地域公共スペースを借用して初めて開催。

催事名：夏季常設コレクション展示「文様とかたち」
主催者名：中部大学民族資料博物館
期間：7 月 9 日～8 月 6 日
場所：中部大学民族資料博物館　常設展示内
内容：企画、各種解説資料作成、展示

催事名：秋季企画展示「春日井キャンパスの 50 年」
主催者名：中部大学民族資料博物館
期間：10 月 7 日～12 月 19 日
場所：中部大学民族資料博物館　多目的室、および 1 F エントランス展示
内容：企画参加、展示資料制作、解説作成、図録制作、展示

（研修）
研修名：平成 26 年度第 36 回文化財の虫菌害・保存対策研修会
主催者名：公益財団法人文化財虫菌害研究所
期間：6 月 12～13 日
場所：国立オリンピック記念青少年総合センター
※平成 26 年 8 月 1 日　文化財 IPM コーディネーター（登録番号 2014IPM-280）認定証受理

研修名：平成 26 年度　愛知県博物館協会　教育・普及部門研修会
「博物館における学びのデザインについて」
主催者名：愛知県博物館協会
日時：平成 26 年 2 月 10 日
場所：愛知芸術文化センター

教育普及に関する活動

授業における利用

5 月 13 日　スタートアップセミナー（国際関係学部）

10 月 7 日　博物館保存論

11 月 11 日　博物館展示論

生涯学習の企画実践

5 月～　　特別講座 1（古典絵画）の開講　（一般有料・定員制 16 名・連続 12 回）

10 月～　　特別講座 2（古典絵画）の開講　（一般有料・定員制 15 名・連続 12 回）

その他の教育普及活動

6 月 9 日　　春日丘高校（国際コース）と国際関係学部の高大連携授業実施

8月9日　　あつまれ！わんぱく隊　夏季催事会場(学生企画による児童対象鑑賞体験見学)

10 月 15 日　MOVE デッサン会によるスケッチ

2 月 18 日　春日井さくらライオンズクラブ例会　第 166 回 2 月第 2 例会

高大連携授業

博物館資料の活用

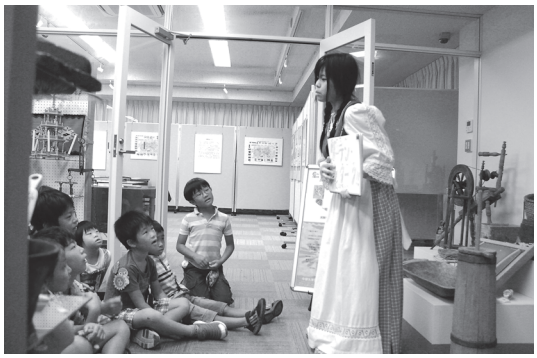
2 月 24 日　愛知県一宮市立大徳小学校　収蔵資料「馬頭琴」1 点

その他

8 月 8～9 日　オープンキャンパス開催期間に国際文化学科へ民族衣装の貸出

11 月 29 日　国際関係学部と中部大学第一高等学校による連携催事へ民族衣装の貸出

3 月 13～14 日　中国語中国関係学科オリエンテーションへの民族衣装の貸出



「わんぱく隊」見学の様子

催事名：「あつまれ！わんぱく隊　夏季催事（博物館見学・体験学習）」

日時：2014 年 8 月 9 日（土）午後

会場：民族資料博物館常設展示スペース

担当：釆睪真澄（幼児教育学科准教授・現代教育学部フレンドシップ活動）
　　三品陽平（幼児教育学科助教）

去る8月4日、夏らしい暑い日に、第4回フレンドシップ「あつまれ わんぱく隊」が開催され、約90名の学生と、地域の子どもたち66名がキャンパス内で元気に活動した。第4回活動の主となる企画は民俗資料博物館の見学と体験。学生たちは子どもたちに「世界には様々な国に様々な歴史と文化があって、その文化を直接見て、触れて、感じることで世界に興味を持ってほしい」との願いの基にこの企画を準備してきた。そして当日、現代教育学部70号館の前で、手作りの衣装を纏って海賊に扮し、迫真の演技と音楽で子ども達を仲間に誘い入れる。しかしそのためには、もっと世界をみんなに知ってもらいたいと語りかけ、世界の文化を見に民俗資料館へという導入を行った。民俗資料博物館では、世界の国・地域ごとに博物館からお借りした衣装を纏った担当学生が子ども達を出迎え、貴重な資料を子どもたちに紹介すると共に、自分で調べたその国の挨拶や歴史、文化などを分かりやすく子どもたちに話していた。一方子ども達は、珍しい楽器や衣装、生活用品を前に驚きや喜びを子どもらしく実に素直に表情に現わし、正に興味津々という様子であった。他では中々見ることも、まして触れることもできない貴重な民俗資料博物館の収蔵物を真直に感じられたことは、きっと子ども達の貴重な生活経験となり、彼らの「人」を育む上で確かな糧になったと感じる。また、こうしたことをきっかけに、学生たちが異国の文化について自ら調べ、体感したことで、学生自身が多くのことを学んだことも、保育士・教員養成という意味では実に大きかったと感じている。実際学生の一人からは、「この企画をするまで民俗資料博物館の面白さが今一つ分からなかったが、今回自分で調べてから改めて見てみると、資料の背景にある色々なことが見えて面白かった。」という声が聞かれた。これこそが「本物」を収集・展示している博物館の魅力であり、それを学生と子ども達が共に学び合った今回の企画は実に有意義なものであった。（釆睪）

催事名：国際関係学部オープンキャンパス分会場
　　「仮面を通してみる世界、仮面を通してみる私―世界各国の仮面と民族衣装を試着して、携帯で写真撮影しよう！―」
日時：2014年7月19日（土）、8月8～9日
会場：民族資料博物館常設展示室内体験コーナー
担当：伊藤裕子（国際文化学科准教授）

仮面とは何であろう。身体の内の顔だけ、身体を部分的に覆うことによって、身体全体が、またはその存在そのものが「変身する」といった小道具であり、民間伝承、民話、演劇、カーニヴァル、儀式、はたまた仮装舞踏会などの社交や子供のおもちゃにいたるまで、

様々な場面で登場する。変身は、通常の秩序の世界に対抗して、無秩序、混沌をもたらしうる祝祭空間や逆さま世界をもたらす。そうした混沌のプロセスを経て、仮面を取り除いた後の現実世界は、さらに再生へと向かう。

国際関係学部の7月、8月のオープン・キャンパスでは、中部大学民俗資料博物館の協力を得て、仮面展を分会場とし、訪れた高校生方に、仮面や民族衣装を実際に試着してもらい、民族楽器を奏でて、各民族に成りすました気分と、民族特有の音楽的雰囲気を味わってもらった。本民族資料博物館の最大の特色は、民族的工芸品や資料の多くが、ガラス張りのケースに収納されることなく、実際に触れることができることだ。高校生に、これほどまで身近に、世界各国の文物を感じられる機会を提供できる本博物館は、館内空間に訪れた者たちを、ある種の「祝祭空間」へと参入させるのだ。

高校生たちが仮面を被ったところを、また民族衣装を試着したところを、友達が見たら、どう感じたであろう。彼らはすでに、日常の現実世界から離れ、他文化の主体となりすまし、周囲を驚かせるほどの、非現実性をおびけながらも演じているのだ。携帯で撮ってもらった写真を見て、化けた本人も、仮面や民族衣装を被った自分とは何か、制服などとはどう違うのか、自らに問うてもらいたい。こうした疑似他文化体験が、高校生たちにとって、本博物館を後にして現実世界に戻った時、他文化に対する理解を深め、日頃の生活を“regenerate”(再生・刷新する)する契機となることを願う。

博物館職員の方々には、様々なご協力をいただき、厚くお礼を申し上げたい。(伊藤)

広報活動

取材

6 月 4 日　「大学なう」大学紹介番組のため国際関係学部が展示室内にて収録

6 月 20 日　名古屋テレビ放送「アップ！」放映：大学博物館紹介（6 月 23 日放映）

7 月　「菩薩と天人たち（推定現状模写）」「菩薩と天人たち（推定復元模写）」の
画像掲載（東京藝術大学　文化財保存学保存修復日本画研究室編
『日本画　名作から読み解く技法の謎』世界文化社出版）

11 月 28 日　寄贈予定資料のプレス公開　除幕式（朝日新聞社、CC ネット 2 社取材）

11 月 30 日　朝日新聞記事掲載「70 カ国・地域の民族衣装寄贈　あまの故近藤さん収集
1500 点」

12 月 5 日　CC ネット「C ステーション」放映：寄贈受入予定資料の除幕式の様子

2 月 11 日　朝日新聞記事掲載「ナゴヤカルチャー」
東南アジアの写真絵はがき 戦前日本人が見た異国　中部大で企画展

2 月 11 日　中日新聞記事掲載「100 年前のアジア感じて　青木・中部大教授　写真絵はがき展」（同新聞 1 月 20 日催事案内、2 月 14 日夕刊）

2 月 11 日　朝日新聞掲載「ナゴヤカルチャー」
（「戦前日本人が見た異国　東南アジアの写真絵はがき　中部大で企画展」

2 月 18 日　春日井さくらライオンズクラブ会報「KASUGAI SAKURA LIONS」No.105
2015 年 2 月 18 日「第 166 回　例会スケジュール」関係者紹介

3 月 4 日　春日井さくらライオンズクラブ会報「KASUGAI SAKURA LIONS」
JULY 2014 ～ JUNE 2015

大学広報等

「中部大学　2015　大学案内」民族資料博物館

「CHUBU UNIVERSITY COMPUS LIFE 2014」民族資料博物館

「学校法人　中部大学　学園報」第 484 号　2014（平成 26）5.20
（民族資料博物館 2013 年度「特別講座受講生作品展示」）開催記録

「学校法人　中部大学　学園報」第 487 号　2014（平成 26）9.20
（民族資料博物館 2014 夏季常設コレクション展示「文様とかたち」）開催記録
（民族資料博物館 2014 春季連続講演第 1 回、第 2 回」）開催記録

「学校法人　中部大学　学園報」第 489 号　2014（平成 26）11.20
（民族資料博物館 2014 秋季連続講演第 1 回」）開催記録

「学校法人　中部大学　学園報」第 490 号　2014（平成 26）12.20
（近藤英明コレクション除幕式）開催記録
（2014 民族資料博物館秋季連続講演第 2 回」）開催記録

「学校法人　中部大学　学園報」第 491 号　2015（平成 27）1.20
（2014 民族資料博物館秋季企画展示「春日井キャンパスの 50 年」）開催記録

「学校法人　中部大学　学園報」第 493 号　2015（平成 27）3.20
（研究報告展示「日本人が残した写真絵葉書に見る 100 年前の東南アジア　付アフリカ」展）開催記録

その他（学外の催事案内）

「おでかけガイド　愛知の博物館」2014.04～2014.09　（愛知県博物館協会）
「おでかけガイド　愛知の博物館」2014.10～2015.03　（愛知県博物館協会）

平成26年度　中部大学民族資料博物館　展示・催事一覧

期間	名称	料金	参加者数	内容	主催／共催	備考
◇講演						
7月16日	春季連続講演第1回「もう一つのクジラ論―オセアニアからの報告」	無料	41	秋道智彌氏（総合地球環境学研究所名誉教授／生態人類学）	主催	
7月23日	春季連続講演第2回「古代アンデスの環境と人間」	無料	42	大貫良夫氏（東京大学名誉教授／文化人類学）	主催	
10月16日	秋季連続講演第1回「“市中の山居”からのメッセージ」	無料	70	尼崎博正氏（京都造形芸術大学教授／作庭・日本庭園史）	主催	
11月26日	秋季連続講演第2回「茶室・数寄屋像の多様性―近世から近代へ」	無料	53	矢ヶ崎善太郎氏（京都工芸繊維大学准教授／日本建築史）	主催	
◇常設展示　テーマ展						
7月8日～8月9日	夏季常設コレクション展示「文様とかたち」	無料	739	パネル展示、解説、作図、年表	主催	
◇企画展示　（多目的室等）						
4月16日～4月20日	特別講座開講三周年記念展「特別講座(古典絵画)受講生発表展示」	無料	300	於：春日井市役所　市民サロン	主催	
5月16日～6月30日	春季展示「わたしのこの一点」	無料	1,087	運営委員会メンバー等による研究資料紹介	主催	
10月7日～12月19日	秋季展示「春日井キャンパスの50年」	無料	1,932	中部大学の春日井キャンパスにおける建築群と緑化計画の変遷の歴史を写真解説、年表にてたどる	主催	大学開学50周年記念
11月15日（～現在）	整理資料経過報告（民族衣装一部紹介）	無料		仮称：近藤英明氏のコレクション資料		
2月6日～27日	日本人が残した写真絵葉書に見る100年前の東南アジア　付アフリカ」展	無料	276	個人収集の絵葉書に関する調査研究成果報告		企画：国際関係学部青木教授
（2015年下半期予定）	平成26年度　特別講座受講生作品発表展示			（H27年度分と合同開催予定）	主催	
◇常設展示利用						
6月9日	地域高校の連携授業の実施（国際関係学部）		100	鑑賞授業	協力	主催：国際関係学部
7月19日	国際関係学部オープンキャンパス分会場		14	高校生体験と学科紹介	協力	主催：国際関係学部
8月9日	あつまれ！わんぱく隊　（夏季）		192	鑑賞見学（地域幼児児童、学生、教員）	協力	主催：教育ボランティアフレンドシップ活動
8月8～9日	国際文化学科オープンキャンパス分会場「民族衣装と楽器体験」		(30)	高校生体験と学科紹介	協力	主催：国際文化学科
10月15日	地域デッサングループによるスケッチ利用		6	見学およびスケッチ	協力	特別見学申請
11月15日	全国大学博物館学講座協議会西日本部会		53	総会内施設見学	協力	
2月18日	春日井さくらライオンズクラブ第166回例会		32	例会内施設見学	協力	
◇実技講座、ワークショップその他						
5月14日～7月30日	特別講座1（古典絵画）連続12回　定員制	有料	16	実技制作、材料研究・美術史	主催	
7月12日	学外展示協力（演奏会場ロビー展示）			個人蔵資料活用の展示協力	協力	展示協力
10月1日～1月28日	特別講座2（古典絵画）連続12回　定員制	有料	15	実技制作、材料研究・美術史	主催	継続4年目
計　4,998						

中部大学民族資料博物館年報 第 4 号　2014

平成 27 年 7 月 31 日印刷
平成 27 年 7 月 31 日発行

編集・発行　中部大学民族資料博物館
〒 487-8501
愛知県春日井市松本町 1200 番地（附属三浦記念図書館 2 階）
ＴＥＬ　0568-51-9193（直通）
ＦＡＸ　0568-51-9194
印　　刷　不二印刷工業株式会社